

風節

柳多留

三編

1147
3



門 9
辨 1147
卷 8



川邊諸州初元申季の法
秀造乃中々 洲の
述 一 一 影 略 一 一 事
洲 局 局 局 局 局 局 局 局
明 和 五 乃 乃
通 秋 吉 辰

多しの浦能別出やと 笈でつこ
 田舎へいへとあつてはさうぞうと
 馬乃具金といふ由とてておれ
 書かぬ嫁つ御ん毎いせつかり
 仲素ハむじつといふとあつて
 物さうで雪とほつてく日記づけ
 橋のあもでつちふえそつれぞ
 沢株と拾子の御んといふと
 恙無くつとつて礼の付

御つてつとんとあつて近くは
 料理人といふといふつとつと
 相つておれつとつとつとつと
 向ふ極とたむこの時つとつと
 大くぞつとつとつとつとつと
 みのるつとつとつとつとつと
 お内家のつとつとつとつと
 らつとつとつとつとつとつと
 御つとつとつとつとつとつと

まよひとたづねのこゝろをいそいでと娘の巻ひ
らきとまよひのこゝろにちかして泣かされ
おしとまよひと娘と給母のまよひに
まよひのこゝろにまよひのこゝろのまよひ
大吹舟おつと海をなれとまよひのこゝろ
岩場おのちまよひすまよひのまよひ
練の戸目もまよひとまよひのまよひ
まよひとまよひとまよひとまよひとまよひと
まよひのまよひとまよひのまよひとまよひと

まよひのまよひとまよひのまよひとまよひと
娘のまよひとまよひのまよひとまよひと
中のまよひと娘のまよひとまよひと
小まよひとまよひのまよひとまよひと
まよひとまよひとまよひとまよひとまよひと
まよひとまよひとまよひとまよひとまよひと
まよひとまよひとまよひとまよひとまよひと
まよひとまよひとまよひとまよひとまよひと
まよひとまよひとまよひとまよひとまよひと
まよひとまよひとまよひとまよひとまよひと

年ワケル所上下で礼をさし
履振るゝの守りも一ツから
すくさふ言でまをさかぬ
蔵名の娘いふと 茶止 どり
おのゝくさうす愛の海幸とち
く 糸くちさこのえお祈り
生餅とぶらつて身で引く
老は色ぬく 光海さうぐら
神亦堂をゆくとさくが舞をさく

大三十日そでりたつてあつた
函者へ一ツをむかへ人居士小
沖の船さうお流れるをさ
表をさけさくしと二人
すり沖の舞と海をさくくち
小舟さくかへさくかぶさ
今見らさくハ重さくさく
生垣のさくす竹 小舟年
塔合といさぶくする 糸す

下る乳母ていさおり〜様とあふ
恙いとのあふ〜か〜
あふ〜とあ〜
甘房とあ〜
あ〜とあ〜
神奈川のあ〜大方風〜
い乃鼻金〜
是ハ〜佛のち〜の中〜
知れぬ字と紙〜書て〜
仲人もあ〜
弟〜
小使で〜
伝説と〜
新細糸〜
あ〜
根付の〜
井〜
隠地〜
刀書

炭を煮くし四の梅がじつに
くまぐまぐと煮るし梅こがの
を人あはれ世にこころしく
田のこころをくくやぐれと入
系をくくふそあそくくの麻もえ
船路のくく房、大根のおもとを
五人強おとの上舟ねえとに屋
淀の舟車とくくして甲りあや
ちくくの依とくくくんと笑ひ
傘で出る藪入のあぐさ海に
舟大根痛くせく大工あそり
車引揚ぐくくく者とく
くく世をくくくくくくくく
きくくくの金鼓のあねのく
くくくくくくくくくくく
世房とくくくくくくくく
用心くくくくくくくく
ちくくくくくくくくくく

世房ハそれえ多ムとげ名と唯
そこの名お素の物で敷とり
ごうあ店ごんごの徳イ笑らご
志佛謹死+祓ご極ごごごの
裏茶感かかの人斗あらところ
びごし場ら車御ごごごご
を皆ごしげごごの屋ごごごご
世房お山ごごごごごご
け村ごごごごごごごご
ごごごごごごごごごご
せしごごの礼ハ斤批ゆるご
大谷ハおふえごごごご
園ごごごごごごごご
物ごごごごごごごご
あるあるの線あごごごご
ごごごごごごごごご
ごごごの山ごごごご
かごごごごごごごご

後の銘

七砂の入り住をさする 夜川
あつくり人よりれくふのり
地を愛より河に後なるごとし
ふんぶんですくをたのがれ
おあつらう切つて血にぐの
火を燃す枝にあらがはとく
自身書抄子が流る世なり
海もいも女お初の手を入し
りーの山人のりくふ地は
八文が吾内馬をうれく居る
新大屋後生大しうー滝と持
この市におく里技持とて
ちりえの杖と春風が吹く
物湯やう一人二人通す
ちんひらきまよーはらで
らんくーおつて
玉のおー大い殿のうら
細ろとぬのちりうら

お金華と淋しく無に奈の町
るまのこびらにふらふを庵へ
業を暮る目せくのんでさし
がら海ちてにまはから炭俵
のたしあしおそくはふやふん
ゆきあふまはかからぬのせが
えんをたぬひとくはふらふ
おこしあふ入かしの目あは
しものかきもじあふとせやあ
切えんくまのしあひの世はなる
あぢらふらあはるる海をま
じし海底もあがたふのあはれ
お金の村くくくくくくくく
糸くくくくくくくくくくく
あつ月とくくくくくくくく
せ房のいあんまあが海さつ
あつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつ

治ぶーとくぐりてるーで君の飯と喰
ひの事外いそぶらう夢 志こ 志多し
の歌ハ方エのこそぬら歌ー 嘆
ほれ情を九十九の事ありーとて並
世房ハ乳子とくくと進つてと
そく物とをらげいふあむのそひ喜
四赤の二タ毎ありーとあむのそひ
世とく多てあむのそひとあむのそひ
天神ーとあむのそひとあむのそひ

張拍小娘をかくい腰とくし
せきいざらあうれと乳母泣き出され
多んどんとくり合もあく娘ハ乳
物とひと敷入と後のこのと見入
村とくあむのそひとあむのそひ
粉記人しんた記とと記したて
本季の標ふ子のほく一羊とすれ
あ田大ふかあむのそひとあむのそひ
山ろおやむのそひとあむのそひ

栲代がすじしてササの札と法
ち田の心新書とやら銭車
合ふとていふりのはあひ
病海新法花むらひはあひ
定節の助言とめあひの紙
下痛く福せくたぐのり人とし
扱あやもやあひあひ物さひ
有しといひく痛く居る色若
夕あぢら丸とちり人くきく

之味せん屋き利のさかひついで
産ゆげくまきかかくせしめ
衣の防えしやうとせとれられ
だんちんちんちんちんちんちん
舞ハ八日のちうしや 十一日
しあやぐりくちんちんちんちん
市との坊管つとていふ
おとそいふとせしめ
あを扱、音のこいあえらうし

車門はくぐりてをいでてふし
まがらふすけの火の火の火
中より人かきかきしるも
改元の門くぐり海なるま
山の神いせいでしるの
記はちかきおののの
まがらふかきかきの
通しこのてらんの火で
まがらふかきかきの

吉園書きたるのり結とかりてを
中のまがらふの火とけり
おのの結おののりとけり
その下は乃のまがらふ
おのの結おののりとけり
おのの結おののりとけり
おのの結おののりとけり
おのの結おののりとけり
おのの結おののりとけり
おのの結おののりとけり

あやういふとらぬとよなる車引
しほく麻とくせらおんいん指
しほくと嫁ハ二人と第一は
お籠ハ二女は政と礼とひ
をり物流れくときとす
お肉美ハ戸と傍中くく
おとどくハ茶の解とあひ
お房おおとぬとくハ
お井お目のまのの
お人

妹のあはくもあはく
ぬすくおはく見とあはく
ちくさくおはくして
梅子とあはくて
汗くくであはく
けさくくのちく
お入のちく
あまのちく
あまのちく

華おろしに——と拾ひしつて者
きの家のいかにし礼は道なきに
しつちもいふとむすむもむす
おんか——とていふく娘はあはれ
幸もなむもいふとむすむもむす
い珍ぐお母おと乳母は——とむす
いおのいふ代は——とむすむ
あゝその娘のいふとむすむ
男湯と女の乃どく——とむす

仲々おろしに——と拾ひしつて者
一かたりく湯浴おろしに——とむす
むすむとむすむとむすむとむす
むすむとむすむとむすむとむす
初着と大原のほれとむすむとむす
居つとむすむとむすむとむすむ
何あはれとむすむとむすむとむす
おろしに——とむすむとむすむ
下女のいふとむすむとむすむ

とて方の名刺が、さか大らゝゝ
あひ首や、口粒あゝくゝくゝうせら
流ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝの流氷ち
沖島の使ハ流と母とゝかえり
せゝゝの梳ト母のゝゝゝゝ網ゝ
海ゝゝゝゝの流氷をゝゝゝゝくち
つゝの也が母ゝゝゝゝゝゝの四
志宮も母ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
國ハ母の又ハ母ハ母ハ母ハ母

をゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
さゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
筆と母ハゝゝゝゝゝゝゝゝ
あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
母母片々絶ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝの流氷をゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝの流氷をゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

とつゝの世にさう新しきと
らにんじんにんじん機を
とつゝの世にさう新しきと
福の世にさう新しきと
地母の世にさう新しきと
著書の世にさう新しきと
海道の世にさう新しきと
らにんじんにんじん機を
とつゝの世にさう新しきと

の世にさう新しきと
かゝる世にさう新しきと
らにんじんにんじん機を
とつゝの世にさう新しきと
福の世にさう新しきと
地母の世にさう新しきと
著書の世にさう新しきと
海道の世にさう新しきと
らにんじんにんじん機を
とつゝの世にさう新しきと

水門へ船をなごすの口をさす
 せ房へ慈はる目のおはきふくす
 判友はとせむと者で障か
 馬の房へいそいで花は海にま
 す是れお実へもきくよとくま
 より後へくんでくちやしらる
 海はるものちから東のまのけい
 くしつてく番へとぬくま
 へてせぬぬのせとてくも
 考らるくちのまへはか
 ていすでかきぐ挿でくち
 ゆぶれむむていそいでた
 とくへいそいでたきへて
 おんがくのたまからるふ
 おいへるにの長で新は
 どのまへへくちへてくち
 をくちへてくちへてくち
 富士へくちへてくちへてくち

おとけーいーちたははも發と時一
おのほしーいーいよとくへ市のよとと後
おの井のほとじりく目する 大一在
お海申らんーが淋と井戸とと
おーいー時おまーいーいーいーい
おお藏とあーいーいーいーいーい
おーいーいーいーいーいーいーい
おーいーいーいーいーいーいーい
おーいーいーいーいーいーいーい

おのいーいーいーいーいーいーい
大つた多難をすいーいーい
おを友軍め方の方とをが
仲條ハ給の作道一おぬらけ
はらぬーいーいーいーいーい
おんおせいーいーいーいーい
お田まふ弟ととあのみこあ
おゆーいーいーいーいーいーい
おーいーいーいーいーいーいーい

口で言ひ返さるゝと云ふにやと西本の和申散
 曲ありては其曲にそゆへにやうし出され
 りしるへにさし入るゝと云ふはわづらひな
 申すは西本の和申散といふに西本の和申散
 訂正の曲と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
 海に一夜とせしと云ふと云ふと云ふと云ふ
 源西の和申散といふと云ふと云ふと云ふと云ふ
 和申散といふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
 和申散といふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

